

6. 令和6年度茨城県てんかん地域診療連携体制整備事業報告書

筑波大学附属病院てんかんセンター 部長 石川 栄一
筑波大学附属病院てんかんセンター 副部長 榎園 崇
筑波大学附属病院てんかんセンター 副部長 増田 洋亮

1. はじめに

筑波大学附属病院では、各診療科がそれぞれ診療していた縦割りのてんかん診療から、各科連携の強化のために2019年7月からてんかんセンターとして活動を行い、令和2年（2020年）10月に茨城県よりてんかん診療拠点機関として指定を受けた。ここに令和6年度の活動を報告する。

2. 診療実績

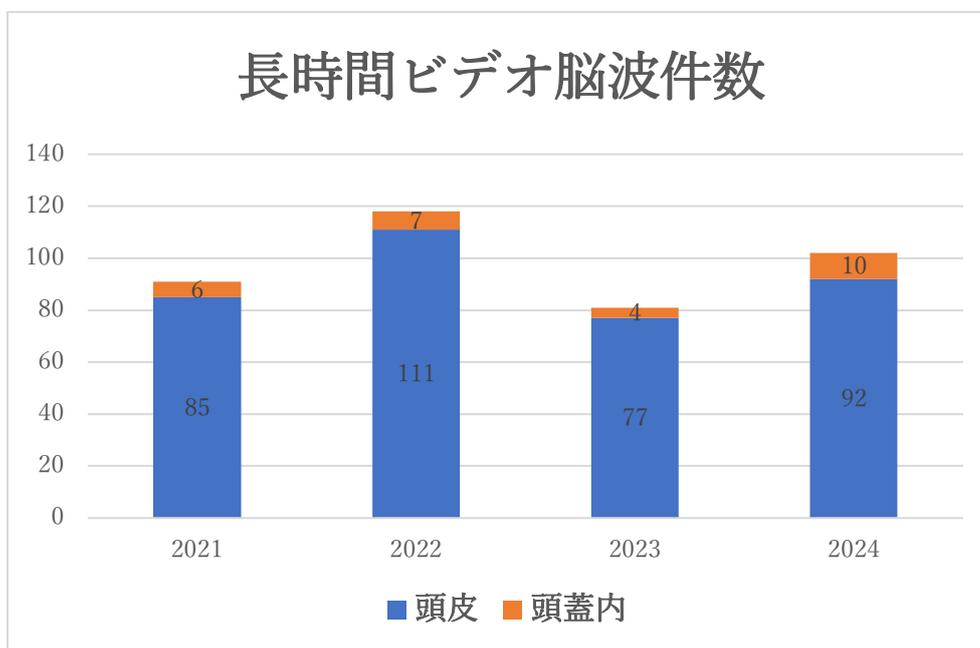
令和6年度のてんかん診療に関わる入院件数はいかに示す通りである。（括弧内は昨年数。）

<令和6年のてんかん関連の診療実績（提出時点）>

頭皮ビデオ脳波件数：合計92件（77件）

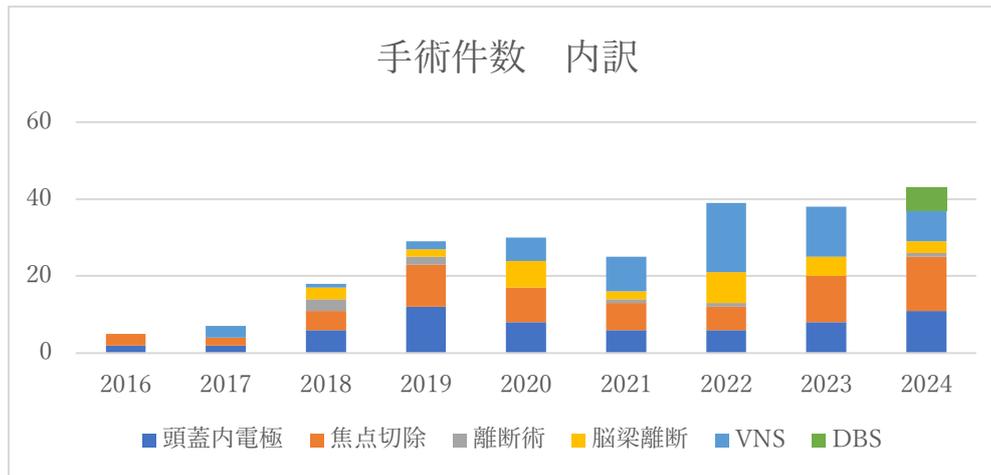
成人科51件（44件）、小児科41件（33件）

頭蓋内ビデオ脳波件数 成人10件（4件）



てんかん手術人数（予定含む） 32人（30人）

てんかん手術件数（予定含む） 43件（38人）



手術内訳は例年通りであるが、本年から DBS が新たに保険適応となったため、治療が開始された。

3. 地域連携事業

① てんかん診療コーディネーター

令和 5 年 1 月よりてんかんコーディネーター（看護師 1 名）を新たに配置。

令和 5 年度には当院てんかんセンターホームページにお問い合わせフォームを開設。かかりつけ以外の患者、家族などから相談事業を行なうことができるようになった。

- 相談体制

非常勤パートタイムであるため、月曜 10 時 30 分～17 時、水曜 9 時～17 時の間で相談に対応。

- 相談件数

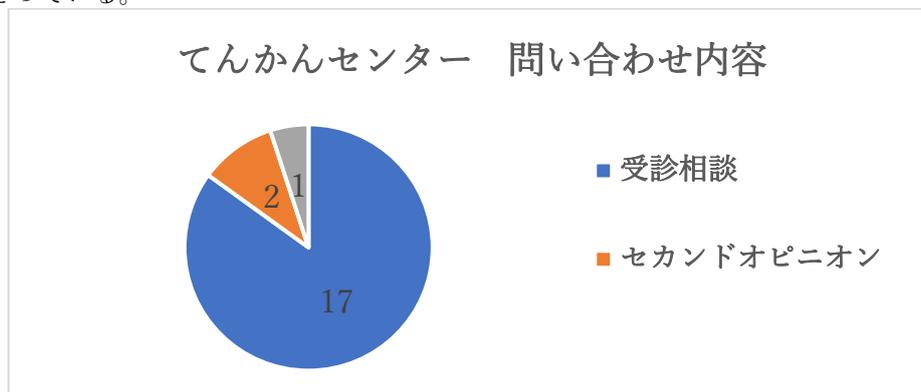
令和 6 年度：20 件

- 主な相談内容

相談件数で一番多いのは受診相談である。（17 件）その他は、セカンドオピニオンについての相談が 2 件、再手術についての相談が 1 件であった。

お問い合わせフォームに予め患者の居住地（都道府県）を記載していただき、茨城てんかん専門医が外勤等で診察を行う近隣の病院を紹介。

その後医師の判断により、手術やその他の治療が必要であれば当院やその他てんかんセンターへ紹介する形をとっている。



② 茨城県てんかん診療ネットワーク

昨年度、県内のてんかん診療の課題やニーズを明らかにし、将来の問題解決につなげることを目的とし、「茨城県におけるてんかん診療の実態調査」を実施した。茨城県内 199 の医療機関を対象として Google forms にて調査を行った。69 名（約 35%）、計 49 施設から回答を得た。回答結果では、専門科は小児科、脳神経外科、脳神経内科、精神科の順で多く、県内 9 つ全ての保健医療圏より回答を得た。

てんかん重積発作が持続する場合、「搬送可能な専門医療機関は明確である」という回答は 52%であった。薬剤抵抗性てんかんを診療した場合、「紹介可能な医療機関は明確である」という回答は 74%であった。「16 歳以上のてんかん患者を紹介可能な医療機関は明確である」かについては 65%が明確ではないと回答した。「小児期発症のてんかん患者を移行することが可能か」については、条件付きで可能という回答が 71%を占めた。その条件は、発作が十分に抑制されていること、専門医療機関との

併診体制が整っている、などであった。

まとめとして、薬剤抵抗性てんかんに関しては、紹介可能な専門医療機関の認識は比較的浸透しつつあると考えられた。一方で、てんかん重積発作が持続した場合の対応や、成人てんかん患者の診療連携が今後の課題と考えられた。今後、県内それぞれの医療機関の診療体制について、どの医療機関で、どのような患者を対応可能で、どのような検査や処置が可能か、今後、情報共有のシステム作りをすすめていきたい。詳細については、茨城県医師会報へ投稿準備中である。昨年のでんかん診療の実態調査を踏まえて、現在、県内のでんかん診療施設について、実施可能な検査や診療可能な年齢層や病態が一目でわかるように、リスト化を進めている。

4. 教育・啓発活動

① 院内活動

- ・令和6年度の脳波カンファレンス 15回
- ・令和6年度のでんかん症例検討会 10回
- ・パープルデーイベント 1回

脳波カンファレンスは月2回、てんかん症例検討会は月1回定期開催している。

今年度、WEB上でカンファレンスを配信できる環境を整えられたため、来年度外部の病院に声掛けを行い配信予定。他院の医師や他職種もWEB上で参加できるためより深く意見交換が行えると考えられる。

パープルデーには院内でリーフレットとパープルデー日本の缶バッジを配布し、てんかんの啓発活動を実施した。

② 院外活動

令和6年3月24日、啓発のための市民公開講座「てんかんと周囲の支援」をWEB上で実施。133名に参加していただいた。

市民公開講座 筑波大学附属病院てんかんセンター

てんかんと周囲の支援

令和6年3月24日 (日) 16:00~18:00 web

講演 1 16:00~17:00 「てんかん基礎講座」 総合司会 石川 崇一 先生 (てんかんセンター長 脳神経外科)

- こどものてんかん 上野 裕一 先生 (筑波大学附属病院 小児科)
- 成人てんかん 荒木 孝太 先生 (筑波大学附属病院 脳神経外科)
- てんかんとこころのケア 高橋 卓巳 先生 (筑波大学附属病院 精神神経科)

講演 2 17:15~18:00 特別講演「てんかんと周囲の支援」

- 子どもに対する家族・園・学校側の支援 榎園 崇 先生 (小児科)
- てんかんのある人への支援制度・運転免許 増田 洋亮 先生 (脳神経外科)

主催: 茨城県・筑波大学附属病院 (茨城県てんかん支援協議会)

共催: NPO法人 筑波脳神経外科研究会

てんかんという脳の病気をどう存じますか？
今年ではてんかんのある人に対する周囲の支援や制度について詳しく解説していきます。てんかんのある人が利用できる制度はありますが、患者さん自身もご存知ないことが多いです。てんかんの支援制度や周囲の支援方法について一緒に勉強しませんか？

お申し込み・お問い合わせ先
*お申し込みはQRコードまたは下記のURLから登録サイトにアクセス願います。
<https://tsukuba-neurosurgery.org>

参加費 無料
定員 450名

皆さんで応援してみませんか？

Purple Day

3.26

「てんかん」啓発の日

2024 3.28 Thu
13:00-16:00

筑波大学附属病院 玄関ホールにて展示

カナダに住む女の子、キャンディー・メーガンさんが始めたキャンペーン。この日は世界各国の人がてんかんをもつ人への応援のメッセージを込めて「紫色のもの」を身につけます。皆さんも一緒に紫色のものを身につけて、てんかんのある人を応援しましょう！

主催：筑波大学附属病院てんかんセンター

5. 今後の課題

令和5年より、当院では専任のでんかんコーディネーターを配置し、てんかん患者の皆様がより相談しやすい環境を整えるためにお問い合わせフォームを開設した。この取り組みにより、これまで以上に多くの患者様が適切な情報を得られるようになってきていると考えられる。

お問い合わせフォームを開設してから1年間が経過し、当院のでんかんセンターホームページを通じて20件の相談があった。なお、ホームページには茨城県のでんかん専門医を紹介する表を掲載しており、多くの方がこれを参考にして直接受診されるケースも増えていると考えられる。

しかしながら、まだまだこのお問い合わせフォームを知らない方も多くいらっしゃると感じており、今後も市民公開講座などの場を通じて、お問い合わせフォームについての啓発活動を継続していく。今後もより多くの方に正しい情報を提供し、適切な医療を受けていただけるよう努めていく。

パープルデー・市民公開講座も、市の職員などを含め多くの方に啓発していただき、毎年参加者は100名を超えている。今後も様々な場面で啓発を行い、より多くの方に参加・興味を持ってもらえるよう努めていきたいと考える。